



松尾町に市内で初めての精神障がい者の通所作業所「たいむ作業所」が設立され、9月13日、開所式が行われました。

同所は鳥羽志摩地域家族会「みしま会」が運営しており、精神に障がいがあるかたを対象に日中の活動の場を提供し、就労や社会参加へ繋げていくことを目的としています。通所者は一日に約5時間、手芸品や海産物作りの仕事に従事する予定です。

同所代表の中井博幸さんは「通所者の一日も早い社会復帰と家族と楽しく過ごすことができるように取り組みたい」と話してくれました。

社会参加を支援したい



9月1日、鳥羽アマチュア無線クラブ（会長 山辺幸保さん）の役員3名が市役所を訪れ、市長へ災害時の情報伝達支援を申し入れました。

市内で災害が発生し、通信の遮断により各地域の被害状況や避難状況などの把握が困難な場合に、同クラブのアマチュア無線従事者が市役所を基地局として無線で情報を伝達することで災害復旧活動を円滑に実施できるように支援するものです。

今後は、市役所庁舎へ基地局アンテナの設置や、市の災害訓練への参加も予定しています。

アマチュア無線による情報伝達支援

まちの話題 18号



鳥羽3丁目の洋菓子店ブランカ（石井隆久社長）から9月16日、高齢者福祉へ役立てていただきたいと敬老の日に売り上げた12万3,086円の寄付がありました。

寄付は、今年で4回目となり、石井社長は、「これからもできる限り続けたい」と話してくれました。

市長は、「大切にに使わせていただきます」とお礼を述べました。

高齢者福祉に役立ててください



菅島、答志島、神島の3離島で9月16日、イセエビの水揚げがはじまりました。

県内のイセエビ漁解禁は原則10月1日ですが、市の離島周辺は伊勢湾口付近にあるため水温の低下が早く、半月早い解禁が認められています。

16日未明に沖合いへと出港した漁船では、前日に仕掛けられた刺し網が引き上げられ、掛かったイセエビが市場へと運び込まれました。

解禁初日は、天候の影響もあって昨年より少ない水揚げとなりましたが、市場では1kgあたりで昨年より500円ほど高く取り引きされ、最高値は6,500円でした。

イセエビ漁解禁！